



THEME

「中藤島と防府をつなぐ“ふなばし”」

活動発表と夜なべ談義

10/9

交流相手2団体の活動発表と地区のこれまでの取り組みをビデオ等を使い報告しました。

夜なべ談義においては、大会の本来の目的である「膝を交えて本音で交流」の言葉どおり、交流先の皆さんと地区民が、まちづくりについて本音で話し合いました。



市内見学

10/10

一乗谷朝倉氏遺跡等を見学しました。帰りの福井駅では、交流相手先の皆さんと一人ひとり握手を交わし、お互い「これからですね」と再会を誓い合いました。



交流会を振り返って

私たちは、夢プランで取り組んだ「舟橋」をテーマに交流事業を企画いたしました。

舟橋を架けた地域は全国に何ヶ所もありますが、その中から山口県防府市の2団体を招致し交流を図りました。

2団体の活動発表において、川をきれいにする・川を愛することの素晴らしさなど、たくさんの事を教わり、地区民にとってこの交流会は意義深いものとなりました。

また、交流大会には、たいへん多くの地区の皆様の協力と参加を得られ、団結して実施できたことが、何よりも大会の成果だと思います。

これを、新たなまちづくりの出発点としたいと考えます。

「住みたくなるまちづくり全国交流大会・地域間交流会(まちづくり交流会)」を振り返って

地区アンケート結果

1 対象数 福井市43地区
2 回答数 35地区(回収率 81.4%)



どんな点が有意義でしたか？(抜粋)

地域社会の連帯感が希薄になったと言われ、またそう思ってきたが、今回の事業を通していざとなればまだまだ地域の力があると実感した。とりわけ、他地区と合同で事業を行なうことで、どうなることかと危惧したこともあったが、地域の人達の知恵によって乗り切れたと実感した。

他の地区での「まちづくり」について、いろいろ知ることができて参考になった。

まちづくりに取り組む上の問題点について、意見交換し対応策を見出せた。また、意見交換の内容を地区の多くの方に聞いていただくこともでき、地区内のまちづくり意識高揚の一助となった。

まちづくりはみんなでやるんだという意識作りが出来たことと、交流相手の人がすばらしいという言葉を残して帰られた事に、この催しをやってよかったとの有意義さを感じた。

当地区は四地区合同で協力して交流会が出来たこと及び、準備までの会議の中でそれぞれの地区の実情が知れたことが有意義だった。

色々な苦労話の中から、我々の取り組みが全国的にみれば、まだまだ初期の段階であることがわかった。

他のグループから活動エネルギーをもらった。

力を合わせ多くの住民が参加してくれた。

情報交換は、相互の交流が深まり有意義なものだった。また、両地区の行政、自治会、子ども会等の積極的な参加は、交流そのものを活性化させた。

他県の人との交流も大事だったが、私の地区は4地区共同での取り組みが有意義だった。

グループ交流により地域間が非常に近くなったように感じられ、親近感がより強くなった。

夜なべ談義等を通して、相互理解を深めることができた点は有意義ではあったが、福井豪雨の影響で、開催が危ぶまれたり、準備が一時中断したりして、地区全体の盛り上がりとしては、若干不満なものとなった。

各実行委員が、各部署において積極的に力を発揮しあうことができたこと。



事業の目的とは何でしたか？(抜粋)

歴史遺跡をめぐって、先人達のまちづくり国づくりの思いを確認し、今後のまちづくりの助けにする。

“自分のまちは自分で守ろう、自分たちのまちは自分たちで守ろう”の意識の啓発。

人づくりを通し、住みたくなるまち作りをどのように進めるか。一人でも多くの住民が自分たちのまち作りにどのように参画できるか。

まちづくりを考えるひとの輪を広げること。
 とかく弱いといわれている青年層に切り口を求め、県外招致2団体との交流を通して今後の青年グループ活動に活かすこと。
 蛸を通して自然環境をいかに復旧させ、次の世代に残せるかを考え、しかも楽しみながら実行できないか、その方法を見つけるヒントを得ること。
 これまで取り組んできたわがまち夢プランをはじめとする事業の確認。近隣地域の住民との交流とイベント開催時のノウハウ修得、情報交換。
 地区のまちづくりについて先進地（他県、グループ内）から何を学びとるか、今後の指針の決め手となるものを選ぶため。
 住民のまちづくりの啓発。地区におけるすべての事業の事業化。次世代の養成。
 住民主導型のまちづくり活動の方向性を探る。



この大会の一番の成果とは何ですか？（抜粋）

自己のまちを見直し、新たな視点に立ったまちづくり、人づくりの足がかりになった。
 世代間の交流が促進された。
 企画から、実施にこぎつけるプロセスを体得したこと。

多くの参加者に地区の良さ（問題点）を分かってもらえたこと。
 公民館（地区各種団体）と小学校PTAが協力し合ったこと。
 子供達（小学生）が多く参加したこと。地区内、各団体が一役を担当したこと。
 まちづくり事業の起爆剤となった。
 今回グループ交流に参加したことで、今まで43地区が、うらがうらがと競い合ってきたことが、この大会を契機に近い地区同士でも交流を深め、協働でまちづくり活動ができる環境ができたように思う。
 他地区の取り組みが私たち以上であったことが分かったこと。
 人的なネットワークを構築できたこと。
 意欲を持つ人が多数見えてきたこと。
 地域まちづくりの大切さが地区民に理解してもらえたこと。
 エネルギーをもらったこと。
 自己の町を見直し、新たな視点に立った町づくり、人づくりの足がかりとなった。
 人と人とのふれあいができ、友人がたくさん出来たこと。
 若人の会が発足した事。今までの事業の見直しをしたこと。
 地域の良さを再確認し、その良さをPRしようと意欲的な住民が増えたこと。
 これからの地区としての目指す目的が見えてきたように思う。

今回の交流を通じて、今後の活動の参考としたい点はありませんか？（抜粋）

子供の各種活動に対する行政、自治会の支援がなされており、学校教育以外での少年教育の充実が見られる。
 PTAとの協力の仕方や地区内各種団体間の連携に参考していきたい。
 若い世代（30才台、40才台）がまちづくり活動に取り組んでいる点。
 ブロックまたは町内会単位での参加（参画）の方法も考えられる。
 青年層や中高生の取り込み方法など参考になった。
 公民館を中心として地区民の青年グループへの暖かい支援が重要だということ。
 新しいものを作り上げることばかり考えてきたが、逆に発展的解消を狙う事も視野に入れるべきである。
 インターネットを利用した情報交換。
 地区によっては、下は小学生～高齢者までが参加できることがいくつかあったので、自然に参加できるものを今後考えたいと思っている。
 青年を混じえたまちづくり。
 事業を担っていくメンバーを確保すること。
 種々の活動において全力で実施する。中途半端にしない事。
 近隣の方との交流。
 一人でも多くの地区民が参加でき、また参加する雰囲気づくり。
 リーダーのあり方、心意気、リーダーシップ。

まちづくり交流会の感想とこれからのまちづくりへの思いは？（抜粋）

地区民の協力を得て空き家の有効利用対策を考えていきたい。
 財政的支援があったことから今回の交流が実現でき、大いに助かった。
 交流相手との絆が深まり、今回の交流活動へのはずみとなった。
 まちづくりにおいては、各層からの町民代表等での組織化を図り、当地区の将来像を設定すると共に、交流事業の継続を含め推進していきたい。
 今回10年の集大成として実施しましたが、どの事業も続けることが大事であり、さらにまちづくりを進めていきたい。
 地域が一丸となり新しい事業を進めるためには、大変大きな力と結束が必要です。それらはやはり一人一人の協力であり、目的を達成させようという熱意ある心の集合です。私達の地区にはその集合体が多く存在し、また新しく芽生えようとしています。大事に育てていきたいと思っています。本年は誰もが予想しない未曾有の災害が発生した事により、地域の連帯や協力体制の必要性、そして何よりも安全で安心できるまちづくりが大切であると実感しました。

「住みたくなるまちづくり全国交流大会・地域間交流会(まちづくり交流会)」に参加して

交流相手先アンケート結果

1 対象数	交流相手59団体
2 回答数	36団体(回収率61%)
3 回答者	39名

1. 福井市の印象は？(抜粋)

住民が温かく、7月の豪雨災害の影響を全く感じなかった。
男性がリードしているようで、裏でしっかり女性が締めているような雰囲気を感じられ、とても親しみやすかった。
自然が豊かで落ち着いた地域
静かな落ち着いた環境で度重なる災害にもめげず、地域の皆さんが協力して復興に努力され、まちづくりに意欲的に取り組まれていた事、感動しました。
歴史と文化の色濃い落ち着いた雰囲気の街
みなさんが優しく親切で、地区の人たちの絆の強さを痛感しました。人は共通の目的を持って活動するとあんなにも強い絆で結ばれるのだなあと心打たれました。
福井駅から会場周辺まで車で短時間市内を見ただけですが、駅前とその周辺が殺風景に感じる、雪国を感じる。自然に恵まれ、静かな環境のよい町。学園都市のように人々は純朴さを感じましたが、表日本のような活気がないように思うのは、気候風土の違いか...
市民がとても温厚で、人間関係がよく出来ているように思った。特に、親切であった。また、市全体がイメージより明るく整理されていた。
夏の水害にもめげず全国交流大会を開催され、住民パワーのほどを感じました。
言葉が東北地方に似ていて好感が持てます。地方色をいつまでも大切にしていきたいと思います。

2. もう一度福井市へ来たいと思いますか？

来たいと思う	38 (何度も来ている 2を含む)	来たいと思わない	0
無記入	1		

3. 今回の交流事業に参加して、有意義でしたか？

有意義だった	39	有意義ではなかった	0
--------	----	-----------	---

4. どんな点が有意義でしたか？(抜粋)

外から日頃の活動を振り返ることが出来た。
各地区での取り組み事例を互いに交換できたため、今後の励みになる。
それぞれの町の様子が少し分かった。自分の考え方と同じで自信が持てた。
他の団体との交流、意見交換。がんばっている人からパワーを貰えたこと。
県内外の活動団体と交流が持てた点。自団体の活動PRができたこと。
地区の方、交流に参加した地域の方々、本音の話しがいたるところで出来たこと。
まちづくりは人づくり、風土気候等の違う地域の人たちとのふれあい、同じ目的を持った同士が意見交換することが非常に良いことと思います。
特にまちづくりメッセを拝見して、全国的な規模に接し大いに参考になった。
水害地域も見てきた。災害の経験者から多くのことを教えていただいた。
住民一人ひとり、特に中高年層が町づくりに精を出しておられること。
他の市町村のまちづくりについての情報が入手できた。
地区住民の方が地区を愛する思いが強く感じられた。
他地区の活動を知ることは、自分たちの活動を振り返る意味で大変よい。

5. 交流事業の内容について、感想は？(抜粋)

2泊3日という短い期間ではあったが、プログラムが充実していた。また、雨(台風)の影響で内容の変更があったが、スムーズに対応をいただいた。
これだけ大きく、しかもきめ細かく会の準備をされるには、大変なご努力と地域の皆様のご協力が必要だったことと思います。協力体制のすばらしさを感じました。

「交流宣言」にある子供たちと共にお互いの思いを醒めさせないよう継続的に交流を続け、私達の町がより住みやすい故郷であるよう願っています。

「まちづくり」のための強固な組織づくりが必要。若い世代の参加が必要。

今後のまちづくりのあり方に地区住民が関心を持ち、参画していくことの必要性について、これまでよりも幅広い世代に投げかけることができた。また、各種団体に参画を依頼し、交流の場に参加いただき「まちづくり」への意識を幅広く高めることができた。今後、安定した事業を継続できるよう組織づくりを進めたい。

今回の全国交流大会で県外団体の目にも福井のまちづくりに対する市民の情熱は十分に伝わったと思う。これからは、このような活動を地道にやっていければと思う。

色々な活動メニューを用意して楽しく参加していただき、それぞれができることを気軽に、そしてできるところまでをモットーに、一人づつでも良いから輪を広げていけたらと思う。

まちづくりでは一人ひとりの熱意と創意が必要と思う。「ゆとろぎ」の精神で今後も継続していきたい。

今回の交流会を企画していただき大変勉強になりました。今後このような事があたら参加したい。

地区内交流の財源対策。毎年の実施より、一定期間の間を置いた統一イベントを市全体ですると良い。

今回、人を介しての市外の方々との交流という初めての体験に不安がありましたが、誠心誠意対応しようという意志のもと地区の皆さんと取り組み、それなりの成果もあったと思う。参加協力をお願いしたメンバーにも積極的にまちづくりを考える思いが芽生えたように思われる。

同じ地区に寝起きをしていますが、公民館単位の活動が主で他の地域がどのように活動しているのかは公民館の館長さんや主事さんの話から推察するだけでしたが、今回の交流で他の地区の活動を見聞きすることが出来たこと、数多くの方との交流がもてたことが有意義でした。最初は市役所に尻を叩かれながらの準備でしたが、やはり参加することは大変楽しい事だと再認識しました。

過去10年間にわたってまちづくり活動をすすめてきたが、官の主導型では真の地区のまちづくりができるものではないと思う。今後とも地域主導のまちづくりに励みたいと思う。

私達の今回の成功の最大のポイントは、まちづくりを地道に続けてきてくださった方々のお陰です。その皆様を中心にこれからもまちづくりを続けます。

福井市の中での地区交流を活発化させると良いと思います。

隣接する身近な地区との交流が暖かい人間関係を構築してくれたと思う。それが一時的なものであれ、あるいは一部のものであっても地域交流会(グループ)でつくられたことは印象深く残されていくものと思っている。

まちづくりとは他所をみながら自分の地域の良さを再認識する必要もある。人と人、地域と地域の交流は大変良かった。話し合えばヒントが必ず見つかる。

地区内でのグループ行事の開催については、賛否両論。漸く9月上旬に開催が決まった。地区の祭や行事が中止となる中で、立案から実施までひとつの事業にグループを組んだ地区が、協力し合えたこと自体、画期的なことでも大きな成果であった。まちづくりとは、人づくりこそ地区を変える出発点。地区に誇りと愛着を持ち、同時に考え、発言し、行動する資質の高い地区民を1人でも多く育てたい。最初は誰かが仕掛けなければ地区は動き出さない。

福井市が国際社会の中で注目されるような「まち」にしたいと思う。

当地区には目玉になる事業が無いので小学校を中心とした交流及び地域住民の協力の和を深めて行きたい。

この全国交流大会は、長い準備期間を要して当日を迎えたわけですが、本番間近である夏の準備期間を「福井豪雨」のため失い、また精神的にも疲れた状態のままで参加してしまったことは、大変悔いが残った。

人を集めるのに苦労した。私はあまり組織を作るのが上手でなかったのか？でも8年間まちづくりをしてきて良かったと思う。一期一会多くの人に出会って励まされ叱られ、ここまで辿りついたと思う。地区に「まちづくり」の旗があがれば共にやっていきたいと思っている。

長い準備期間を二日間の交流事業のため、地区住民と共に全力投球したことが、今後の財産になったと思う。また、10年間を振り返ってみたことも、大変意義があったと思っている。二日間を振り返ってみると、新鮮な気持ちで人に接し、かつ刺激的な事業ではなかっただろうか。交流相手と地区住民の夜なべ談義は大変盛り上がった。特に全員で踊った阿波踊り。個人的な思いだが、このパワーはどこにあったのだろうかと思うくらい、交流相手のリードに乗せられたのか、あるいは乗るのが上手だったのか.....。しかし、その雰囲気づくりが出来たことを評価したいと思う。この力を今後のまちづくりに活かしていけたらと思う。

全体会(意見交換)の時間が日程上充分取れなかったことが少し残念だった。皆さんが一生懸命に「住みたくなるまちづくり」に励んでおられていると実感しました。時間が足りないので、充分交流できなかった。手作りの事業、地域一体となった取り組みが、随所に表われており良かったです。堅苦しくなく意見交換が出来て、すばらしい企画でした。地区の皆さん、公民館の皆さんが少人数スタッフでよく準備されていた。全体会が少し長くなり、分科会の時間が短くなったことが残念です。ここでもう少し突っ込んだ話しが聞きたかったように思いました。夜なべ談義は和気あいあいと話しができ、有意義でした。子どもから老人まで幅広く活動され、協力体制が確立されていました。まちづくりという点で、他の事業ものぞいて見たかった。他団体との交流が少なかったのが残念。福井市挙げてのイベントを行い、いろいろの分野で全国的に交流が図られたこと。細かいところまで一つひとつ気を使っていただき、心ひとつにして取り組んでくださいました。本当に感謝しております。全体会的なものには参加しなかったが、地区ごとにテーマを持って交流の場を設けられたことは適切だった。一方的な報告会になっていたのも、もう少しフリートークなどの時間があれば良かった。ボランティア精神で、各団体の方々が活動されており、頼もしく思いました。公民館として、ひとつづくりの大切さを痛感しました。それぞれの団体の事業は、興味深い内容でした。また、会員の方々が知恵を出し合って熱心に活動されているのには頭が下がりました。

6. 交流をした地区のまちづくりについて、感想は？(抜粋)

住民が世代を超えて一体となって取り組まれている姿に感動した。多くの住民の方々が参加されているまちづくりに感心した。当地区でも一人ひとりの住民が参加することが地域活性化であるとの考え方をもっている。「まちづくりはひとつづくり」を基に年間を通して精力的に活動されていることに心を打たれます。住民総参加での取り組みがすばらしい。自分たちの町は自分たちの手で、という熱意がひしひしと感じられた。雨で変更されたイベントもありましたが、特色あるイベントに感心。実行委員、公民館各部役員を中心に住民全体の町づくりへの思い、意欲が行政に反映しているのがうらやましい。(住民活動と行政の連携がとれている) 過疎化と高齢化。当町と同様な状況下で、きばらず無理せず楽しんで取り組んでいる様子は、大変参考になりました。それぞれ後継者の悩みを抱えた中での「自分たちが楽しく」の言葉は印象深かったです。小さい地区のまちづくりは、いかにして住民を巻き込むかがポイント。住民が積極的に参加している地区は元気があります。高齢化率80%の話にはとても驚きましたが、それでも活躍する地元の方々には感動しました。また、地区のチームワークもすばらしいと思いました。全国からの人を受け入れる体制が取れるのはすばらしいと思いました。地区の方々が自主性を持って活動されていると感じました。リーダーを中心にして伝統あるイベントを地区の誇りとしていたところが印象に残りました。積極的にまちづくりを企画し、地区民の参加意識が強かった。地域の歴史を理解し、住民一人ひとりが誇りを持って生きて行こうとする姿は、共通するところであり、共感を覚えられました。地区民の参加意識をどのようにするか悩みでしたが、地区により事業に参加するスタッフが若返りつつあるということに感心すると同時に、参考となることをご指導いただき良かったです。都市でのまちづくりについて、昔からの伝統を受け継ぎ、継続していることがすばらしいと思った。NPOなど新しい流れとどう結びつけるか今後の問題。私はNPOに近い市民活動をしているが、福井の場合は市民の顔が見えるまちづくりで、とても良かったです。

7. あなたの団体のまちづくり活動と今回交流した地区のまちづくり活動との違いはありますか？あるならば、それはどんな点ですか？(抜粋)

基本的視点は変わらないと考えている。活動内容は地域性があるのが本来の姿である。

大いにあります。地域の人たち相互のつながりのすばらしさは、私の住む都会では望むべくもなく、うらやましくさえ思いました。同じような活動していますが、私たちの所は若者にも積極的に声をかけ、若い力を活かしている。私たちの地区では行政(公民館等)に依存的であるが、福井市では活動が計画から実践まで役員(リーダー)を中心に自主的に取り組んでいる印象が強かった。それほど大きな違いはない。一つの問題の解決策を見つけ解決しても、問題、話題を広げて行き、地域で見直し住民みんなの力で解決している。それを大層がらずに当たり前のこととして実行しているところがすばらしく、スマートだと感じました。さすが福井市だと思います。共に行政主導のように思うが、一つひとつの取り組みによって、地域の一人ひとりが主役になれるように考えている。高齢者が生き生きと活動している。「思い」は同じだと思います。まちづくりについて、行政の助成が手厚いかな...と思いました。本町は施設の工事には多額の投資を行いました。その後は自立を...のかけ声が大きいので、なかなか大変です。主体を個々の住民に置く点。

8. 今後の活動の参考としたい点がありましたか？(抜粋)

地区の防災活動が盛んで、今回の新潟地震もあり、特に必要性を強く感じました。地域全体の中で若者の活動を、いかに活かして行くかを再認識させられた。福井市の皆さんの人情味ある心の豊かさ、そしてふれあいを深めていこうという情熱、これをいかにして作り上げていくか、大きな課題です。地区リーダーの活動に対する前向きなエネルギー。地区のみならず取り組むイベントの企画、助っ人さんのこと、その他今後学びたいことはたくさんあります。高齢者の活躍の場作り。わがまちの「よいところ、よい人材」を探し出すことが、まちづくりの原点であると再認識しました。中年層(40~50歳)のリーダーシップ。(高齢者のみに頼るな)地区公民館と地区内の歴史に関心がある人たちが二人三脚で活動している様子人を饗すということを再確認しました。形だけに終わってしまっていないか、心を持って饗さなければ、相手の胸に深く届かないと教えられました。どこの地域も同じですが、結論は「まちづくり」は「人づくり」子どもや若い人を参加させる工夫。世代交代をうまく行うこと。住みたくなるまちを支えるのはその地区の人、特に青年層が中心となって地区の発展に貢献していかなければならない。貴市の住民・行政一体となったまちづくり構想(計画)、また、住民リーダーの市民活動意識の高さと意欲には学ぶべき点が多かった。

9. 福井市のまちづくりについて、こうした方がよいと思う点がありましたか？(抜粋)

若いリーダーをもっと前面に出して、活性化されれば、もっとすばらしいものになるのでは？今までは行政主導でまちづくりが進められておりましたが、これからは各地域で独自にまちづくりを進めるとよい。次第に都会化すると、まちづくりに対する関心が薄れていくので、今の気持ちを持ち続けられるよう工夫が大切だと思います。

10. 今後も交流を続けたいと思いますか？(抜粋)

思う 37 思わない 0 無記入 2